

**msn**  
ジャーナル

体に関心があるのなら  
【バイオプレート協会】

サイボウズ (Cybozu)  
プレゼントキャンペーン!

バックナンバー  
田口ランディ  
M・キーナート  
茂木 宏子  
吉村 作治  
佐保 暢子  
鈴木 真二

ショートコラム  
ニュースセレクト  
フォトジャーナル  
カルチャーコラム  
辛口映画評  
ニュースなひとこと  
メール配信サービス

現金1000万円大抽選  
参加する Dream High

【大抽選】  
現金1000万円1名様  
当選者はなんと既に5人

映画の達人がそとと教える  
ギフトを魅力的に仕立てるテクニク

Web 検索

【約10秒の審査回答】→ほのほのレク1 異期2.0  
→2.0万円までならスピード審査でメール回答

ほのほのレク スピード審査  
約10秒後メールで回答!

## ニューヨークを歩く―第3回：ミッドタウン中部―テロの足跡と共存するNYのクリスマス(1)

2001年12月21日  
吉田 朱見

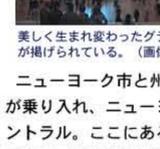


同時多発テロから3ヶ月が過ぎ、ニューヨークもホリデーシーズンに突入した。【世界有数の美しさといわれるニューヨークのクリスマスだが、テロに続き、炭そ菌恐怖やアメリカン航空機墜落などが相次いだ今年は、いつもとは違った気持ちで祝日を迎える人が多いようだ。世界を変えるような事件を間近で経験したニューヨークの人や街は今、どのような表情を見せているのだろうか。テロ直後、マンハッタンから現地の様子をなまなましく伝えたNY在住ライター吉田さんが、ニューヨークの街を歩いた。今回はブロードウェイなど華やかなショッピングエリアが続くミッドタウン。

Microsoft(R) Encarta(R)  
百科地球儀 2001 を基  
に作成しました (地図を  
クリックすると拡大表示  
します)

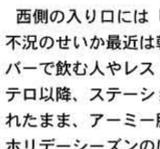
ワールドトレードセンター近くのリパティプラザで、長年ストックブローカーとして働いてきたサル(64歳)。9月のテロ以来、クイーンズ郡の仮オフィスに勤めていたが、今月半ば過ぎにはもとのオフィスに全員が戻る事が決まった。「ただ、女性たちは皆、戻るのを嫌がっているね。空気が悪いし、オフィスの窓から崩れたビルとかが見えるしね」とサル。彼のオフィスで働く妊娠中の女性は辞表を提出したという。確かに胎教にはあまりよくはなさそうだ。「でも僕にとっては、長く勤めた場所だし、愛着があるんだよね」と、戻るの待ち切れないという感じである。

### ●明るい雰囲気駅の駅内に対し、通りの厳めしい警備



美しく生まれ変わったグランドセントラル・ステーションのグランドコンコース。天井には星条旗が掲げられている。(画像をクリックすると拡大表示します)

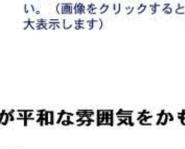
ニューヨーク市と州北部・コネチカット州を繋ぐメトロノースや、各地地下鉄が乗り入れ、ニューヨークの中心的ステーションとして知られるグランドセントラル。ここにある老舗オイスターバーは、観光スポットの一つにもなっている。1913年の開設以来、掃除らしい掃除が行われていなかったこの駅も、1996年、総額1億7500万ドルをかけた3年計画で行われた修復・清掃プロジェクトによって、さっぱりと生まれ変わった。15年ほど前は、夜半この駅に立ち入ると、薄暗い中で泥酔している人や、階段を寝室代わりにしている人達が目についたが、現在は大きなフィッシュマーケットやきれいな専門店などが開店し、駅全体の雰囲気が大変面白い。グランドコンコースの天井の星条旗は再び輝きを取り戻し、時に催されるレーザーショーが列車を待つ人々の目を楽しませている。



閉鎖されているバンダービルト・アベニューの入り口。常時、アーミー服の兵士に警備されている。(画像をクリックすると拡大表示します)

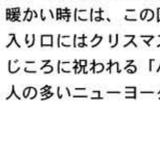
西側の入り口には「マイケル・ジョーダン」のレストランも開店しており、不況のせいか最近は朝食のサービスまで始めたが、それでもラッシュ時にはバーで飲む人やレストランでディナーをとる人達が相当なぎわいである。テロ以降、ステーション西側に面するバンダービルト・アベニューは閉鎖されたまま、アーミー服の兵士や警官、パトカーの姿が目立つが、それも今はホリデーシーズンのほのぼのとした雰囲気に押しざれぎみだ。

ジュリアーニ市長が、ニューヨーク市のクリーン計画に乗り出した時は、「彼はニューヨークをきれいなだけの街にしようとしている」、「街を追い出されたホームレスたちのことを何も考えていない」などの批判を口にしている人々がいた。テロ以降、優れた統率力でニューヨークを牽引し、絶大な評価を受けた同市長の任期終了に当たってのニューヨーカー達の言葉が「規則を曲げてでも、もっと続けてほしい」であったことを考えるとおもしろいものだ。



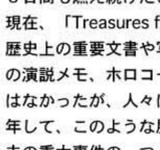
5番街に並ぶギフトショップ。安価な値段の店も多い。(画像をクリックすると拡大表示します)

### ●クリスマスツリーが平和な雰囲気をかもし出す図書館と公園



図書館。正面の歩道では、寒さにも負けず、ストリートパフォーマンスがドラム演奏を響き渡らせている。(画像をクリックすると拡大表示します)

グランドセントラルのすぐ近くに位置するニューヨーク市のパブリックライブラリー(図書館)。白亜の建物で、正面の階段両脇に居座る2頭のライオン像が5番街を見据えている。待ち合わせ場所としてもよく利用され、気候の暖かい時には、この図書館の屋外でランチをとる人々の姿が多く見られる。入り口にはクリスマスツリーが飾られ、向かいにユダヤ教でクリスマスと同じころに祝われる「ハヌカ」の8本のローソクが飾られているのは、ユダヤ人の多いニューヨークならではのところか。



ツリーの向かいにそえられたハヌカのキャンドル。(画像をクリックすると拡大表示します)

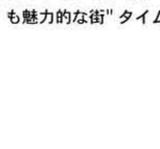
由来は紀元前165年にさかのぼる。シリアに征服されたユダヤの地を、その3年後にユダヤ人が取り戻した。そのエルサレムの神殿の奪回を祝うもの。この時に灯した神聖なランプは、1日分の油しかなかったにもかかわらず、8日間も燃え続けたということから、8本のローソクをつける。図書館では現在、「Treasures from the National Archives」が開催されている。これは歴史上の重要文書や写真を展示したもので、奴隷解放の文書やケネディ直筆の演説メモ、ホロコーストの写真など、大変興味深い。人の入りはそう多くはなかったが、人々は皆、真剣な表情で展示物に見入っていた。今後、数十年して、このような展示会が開かれた時は、今回のテロ事件の写真なども過去の重大事件の一つとして展示されるのだろうかと思いつながら、図書館を後にした。

### ●活気のブロードウェイ「不況なんてうそぞらう」



ネオンの輝きで、夜も屋間のように明るいタイムズスクエア。(画像をクリックすると拡大表示します)

図書館から西へ数ブロック、ミュージカルで知られるブロードウェイシアターが集まるタイムズスクエア周辺。ここは大晦日(おおみそか)のセレブレーションでも有名だ。1907年以來、大晦日の深夜に伝統的に続けられている輝くボールをボール沿いにビルの屋上に落とすアトラクションをひとめ見ようと、約50万人の観客がここに押し寄せ、中継を心待ちにしている人々から驚きである。テロ以降、州外の人々はニューヨークへの旅を避けている傾向にあるが、今年の大晦日は何人がこのタイムズスクエアを訪れることになるのだろうか?

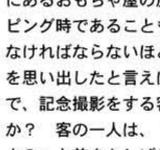


キラキラのネオン街だが、いかがわしい雰囲気はすっかりなくなった42丁目。(画像をクリックすると拡大表示します)

ひと昔前、42丁目を含むこの辺りは、エキサイティングな反面、連なるボルノショップのネオンの下を売春婦やハスラーが闊歩する悪名高き街であった。しかし1980年代から始まった「街の清掃キャンペーン」によって、現在、ボルノ関連の店や多発した犯罪は影を潜め、街全体がクリーンなイメージに変身しようとして再開業に反対の声を上げていた。だが、「最も魅力的な街」タイムズスクエアはいまだ健在である。



2000年11月にオープンした世界最大のインターネットカフェ。コーヒーなどを飲みながら、高速インターネットが楽しめる。ピーク時には800台あるコンピューターが埋まることもあるという。(画像をクリックすると拡大表示します)



タイムズスクエアにできたトイザラス。1度は入ってみよう、人々が行列を作る。(画像をクリックすると拡大表示します)

ここに最近オープンして話題になっている店がある。地域最大級といわれるおもちゃ屋「トイザラス」だ。マンハッタンの中真ん中で、最大といわれれば話題にならないだろうが、一歩店内に入ると、建物のまん中を吹き抜けるように設置した観覧車にど肝を抜かれる。考えてもみてほしい。市街地にあるおもちゃ屋の屋内で観覧車が回っているのである。クリスマスショッピング時であることも手伝い、店内は満員。店員が店内の交通整理に当たらなければならぬと言え、分かってもらえるだろうか? ぬいぐるみ売り場で、記念撮影をする客も少なくない。玩具販売店であることを忘れてはいないか? 客の一人は、「アメリカガリセッション(景気後退)って本当かよ?」と首をかしげる。それほど活況を呈しているのだ。しかし、よく見ればレジの前はけっこう空いている。話題の店だけにさすがに冷やかし客が多いらしい。

### ●静かなバスターミナル



ポートオーソリティ。天井から星条旗とスローガンの入った垂れ幕が下がる。(画像をクリックすると拡大表示します)

42丁目8番街に位置するポートオーソリティ。各地に乗り入れるバスの集結所だ。全米を網羅するグレイハウンドや、シエータラインなどのバスもここが発着所である。週日のラッシュ時には、ニュージャージー州からの通勤者も含めかなりの人数が往來する。



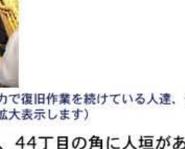
スローガンを入れたダイム・バンクの広告。(画像をクリックすると拡大表示します)

アメリカは丸一となってテロと戦うという意味のスローガンが書かれた垂れ幕が下がっている。このようなアメリカ人の奮起を促すスローガンは、街のあちこちで見られ、銀行の広告などにも使われている。



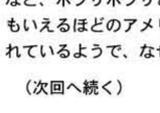
43丁目と5番街の角に立つビルは、星条旗で全体を被っている。今までに見た中で、一番大きな星条旗だ。(画像をクリックすると拡大表示します)

チケット売り場はラッシュ時間外とあって、閑散としている。アメリカ人でありながらタリバーン一人として対アメリカ戦に加わった青年、ジョン・ウォーカーが漏らした、ニューヨークへの化学兵器の攻撃予告が、人々をこうした場所から遠ざけているのかもしれない。兵の往來も少ないが、ひところよりは警備の姿も減っているようだ。ナショナルガードの姿は一人も見かけない。警官の姿もまばらである。私服警備の場合は見分けがつかないが、そうした戦々恐々としたムードはなく、静かで平和な雰囲気が流れている。



ポートオーソリティのチケット売り場は閑散としている。(画像をクリックすると拡大表示します)

### ●追悼の消防士像



ビル倒壊後、日夜惜しまぬ努力で復旧作業を続けている人達、そして亡くなった方々に捧げられた像。(画像をクリックすると拡大表示します)

8番街を北に向かうと、44丁目の角に人垣がある。花やキャンドルが寄せられた、実物よりもひとまわりほど大きい消防士の像がそこにあった。9月17日の「Matthews International」(アト系)の団体で、グラウンドゼロで働く消防隊員、警察官、救急隊員達を称えて、そして亡くなった方々の冥福を祈って、ニューヨーク市に寄付したものだ。何かを訴えるようにかんだ消防士の姿が街行く人々の足を止めていた。

ホリデーシーズンのムードが充満する中、星条旗やスローガン、消防士の像など、ポツリポツリとテロの足跡が街の中に見えかかっていた。脳天気ともいえるほどのアメリカの楽観的姿勢と強さが、この街のにぎわいに象徴されているようで、なぜか安堵感を覚えるのであった。

(次回へ続く)

【大抽選】  
現金1000万円1名様  
当選者はなんと既に5人

【大抽選】  
現金1000万円1名様  
当選者はなんと既に5人